

日本遺産（Japan Heritage）に 「星降る中部高地の縄文世界」が認定されました

文化財・生涯学習課

1 日本遺産（Japan Heritage）の認定について

平成 30 年度の日本遺産（Japan Heritage）に「星降る中部高地の縄文世界—数千年を遡（さかのぼ）る黒曜石鉱山と縄文人に出会う旅—」が5月24日、文化庁から認定されました。

（ストーリーの概要）

日本の真ん中、八ヶ岳を中心とした中部高地には、ほかでは見られない縄文時代の黒曜石鉱山がある。日本最古のブランド「黒曜石」は、最高級の矢じりの材料として日本の各地にもたらされた。

また、ここでは「縄文のヴィーナス」や「仮面の女神」など、縄文人の高い芸術性に触れ、黒曜石や山の幸に恵まれて繁栄した縄文人を身近に感じることができる。



黒曜石



縄文のヴィーナス

2 申請自治体（2県9市3町2村。◎は申請代表自治体）

◎長野県、茅野市、富士見町、原村、諏訪市、岡谷市、下諏訪町、長和町、川上村
山梨県、甲府市、北杜市、韮崎市、南アルプス市、笛吹市、甲州市

3 日本遺産の活用

今後は、申請自治体が「甲信縄文文化活性化協議会（仮称）」を設立し、地域活性化計画を立て、文化庁の「日本遺産魅力発信推進事業」を活用して、国内外からの観光客が縄文文化の素晴らしさを体験でき、地域住民と交流できるエリアである現代版「縄文のまち」を目指し、情報発信、人材育成等に取り組みます。

これまでの認定の状況

- 日本遺産は平成 27 年度に創設され、29 年度までに 54 件が認定
- 平成 30 年度は 76 件の申請があり、13 件が新たに認定
- 県内では平成 28 年度に木曽郡全町村と塩尻市の「木曽路はすべて山の中～山を守り山に生きる～」が認定

木曽地域文化遺産活性化協議会の主な取組み

- ・海外からの観光客（インバウンド）に対応するため、英語版のホームページを開設
- ・ガイドや旅行者用のウォーキングマップの製作

（参考）木曽路を歩く外国人旅行者数 H27 17,000 人 H28 22,000 人

→ こうした取組みを拡大するため更に日本遺産を活用